

## 平成 27 年度日本生理学会第 2 回理事会議事録

日 時： 平成 27 年 10 月 25 日（日） 13:00～16:30

場 所： 東京慈恵会医科大学 高木会館 5 階 B 会議室

### [出席者]

理事長 栗原 敏（議長）

理 事 赤羽悟美、明間立雄、石川義弘、井上隆司、井本敬二、小川園子、尾野恭一、  
加藤総夫、椛 秀人、亀山正樹、久野みゆき、久保義弘、鯉淵典之、小西真人、  
篠田 陽、白尾智明、多久和典子、竹森 重、徳田雅明、富永真琴、藤井 聡、  
船橋利也、前田正信、松井秀樹、丸中良典、三木健寿、南沢 享（計 27 名）

監 事 川上順子、高松 研

陪席者 伊佐 正、浦野哲盟、岡村康司、倉智嘉久、佐久間康夫、関野祐子、高井 章、  
中島 昭、平野勝也、福田敦夫、藤山理恵、古谷和春、八尾 寛、和田 真

### [欠席者]

理 事 入來篤史、老木成稔、大森治紀、岡野栄之、久場博司、澁木克栄、當瀬規嗣、  
鍋倉淳一、船橋 誠、蒔田直昌、持田澄子、柚崎通介（計 12 名）

定数 39 名に対し、28 名の理事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

## 報告及び協議事項

### 1. 理事長挨拶

定刻となり開催する旨宣言された。

### 2. 庶務報告（栗原理事長）

現在特別会員 13 名、名誉会員 6 名が在籍していることが報告された。

それぞれふさわしい活動をされている方がいれば、推薦して欲しい旨、周知がなされた。

会員数が増加傾向である。内訳より、一般会員、学生会員数ともに増加しているので、エデュケーター認定制度が功を奏していると言える。

### 3. 財務報告（石川副理事長）

以下 5 点について報告された。

- 1) 平成 27 年度の決算見込額の計上収益が予算額を上回るのは、平成 27 年度分科研費が計上されているためである。
- 2) 経常費用の予算額を決算見込額が大きく下回った理由としては、大会抄録集作成費を第 92 回日本生理学会大会（以後、神戸大会）側で全額負担してくれたことが主な要因として挙げられる。
- 3) 監事は、予算が適正に執行されていることを正副理事長会議時に確認した。
- 4) 平成 28 年度予算（案）では、業務委託費が前年度と比較して増加しているが、これは、契約当初より業務内容が増加したためである。
- 5) 若手の会運営委員会の平成 28 年度サマースクール活動費として 30 万円支出することが承認されたため、平成 28 年度予算（案）に加えることとする。

### 4. 編集・広報委員会報告（多久和委員長）

以下 4 点について報告および承認がなされた。

- 1) 日本生理学雑誌（以後、日生誌）は、昨年度理事会での決定・社員総会での承認を受けて、本年度も隔月刊で発行した。

FAOPS2019 のロゴが決定したことを受け、第 78 巻 2 号（平成 28 年 3 月発行）より表紙帯に掲載する。

出版元である株式会社杏林舎から、広告依頼主への日生誌配布の費用負担について、今後は学会負担して欲しいと依頼があり、今後は年間 5,000 円程度を学会から負担することとなった。

株式会社杏林舎とは、これまで正式な契約を締結せずに業務を依頼していたが、個人情報保護の観点から交わすこととする。業務委託契約書、機密保持契約、個人情報の覚書を交わすことを提案したところ、条文の確認を専門家に依頼することとし、締結業務については執行部に一任することとなった。

- 2) 平成 27 年 1 月にホームページ（以後、HP）を改定後、会員委員会からのウェブ上アンケートや、出張講義講師登録・講義実績の報告の掲載などの新しい取り組みの申し出があり、ウェブページ制作会社の協力のもとに実施している。
- 3) 本年 4 月に開催された日本医学会総会において、日本生理学会（以後、PSJ）および FAOPS2019 の広報活動をチラシ・サイネージ表示にて実施した。
- 4) 次期編集・広報委員長に上田陽一会員の指名が丸中次期理事長よりあり、委員会でメール会議に諮ったところ、承認された。

## 5. JPS 編集委員会報告（石川委員長）

以下 4 点について、報告された。

- 1) 会員の方々の協力により、The Journal of Physiological Sciences（以後、JPS）の Impact Factor（以後、IF）が上昇している。平成 19 年度（0.72）と比較すると、平成 26 年度（1.899）は 2.6 倍となっている。目標値を 3.0 としているので、引き続きの協力をお願いしたい。
- 2) オープンアクセス化は今後の検討課題とする。
- 3) FAOPS2015 の抄録は JPS への収載となったため、日本生理学会が負担することが議決されている。JPS が FAOPS の基幹誌として認識されるように、努めたい。
- 4) JPS を発行する業者であるシュプリンガー・ジャパン株式会社との契約更新が、平成 28 年に控えている。IF を上げることを念頭に、契約先等を慎重に選択したい。

## 6. 会員委員会報告（亀山委員長）

以下 2 点について、提案および審議がなされた。

- 1) 若手会員制度創設に関するアンケートを今年 1 月から 3 月にかけて、PSJ の HP 上で実施した。集計結果では強い反対意見も見受けられたので、定款の変更を伴う「若手会員」の創設はせず、「会費の若手優遇制度」を提案したところ、会員管理の複雑化への懸念が指摘され、継続審議となった。
- 2) 評議員資格の「満 3 年以上在籍」は、これまで「3 年度以上の会費納入」としていたが、今後は、在籍期間の審査を厳格にして「入会時点から選考時点（社員総会時）までの在籍期間が総計して 3 年以上であること」とすることを提案し、審議を行なったところ、入会者を増やすことが優先であり、従来通りの捉え方でよいのではないかとの理由で、従来通りの捉え方を踏襲することとなった。

## 7. 選挙管理委員会報告（明間委員長）

以下 2 点について、報告および承認がなされた。

- 1) 地区別理事選挙の実施に向けて、下記のように準備している。
  - ・学会 HP、メールおよび日生誌掲載により選挙の告知
  - ・選挙権、被選挙権は 10 月 31 日迄に年会費納入済の評議員
  - ・被選挙権は平成 28 年 3 月（理事就任時）に満 65 歳未満であること
  - ・所属地区は 10 月 31 日時点の所属地区とする
  - ・役員、選挙管理委員による模擬投票（システムチェック）実施予定
  - ・投票期間は 12 月 2 日（水）正午－12 月 17 日（木）正午を予定

- 2) 大森治紀理事（近畿地区選出 任期：平成 26 年 3 月－平成 30 年 3 月）より、一期満了（平成 28 年 3 月）での退任の申し出があり、承認がなされた。大森治紀理事の後任については、日本生理学会理事選挙規則第 7 項 6) に基づき、12 月 2 日から実施される地区別理事選挙で次点選出される評議員を候補とし、大森治紀理事の任期に合わせ、平成 30 年 3 月までの任期とする。

## 8. 教育委員会報告（鯉淵委員長）

以下 6 点について報告された。

- 1) FAOPS 2015（バンコク大会）の Physiology medical education のセッションで、鯉淵典之委員長が日本の MD-Ph.D コースと生理学エドゥケーター制度について講演を予定している。FAOPS2015 に参加するパネリスト学生を募集したところ応募があり、審査の結果、1 名決定した。
- 2) 『MCQ 問題集』『解剖生理学クリアブック』『一步一步学ぶ生命科学』の改訂が多くの会員の協力で行われ、平成 27 年度内に発行できる見通しがたった。
- 3) 神戸大会前に開催された委員会（3 月 20 日）では、会期中 2 日目と 3 日目に開催する教育プログラムの運営について最終確認した。
- 4) 神戸大会閉会後に開催された委員会（7 月 26 日）では、教育プログラムを撮影したビデオの編集作業について討議した。
- 5) FAOPS2019 教育ワークショップを医学教育学会と共催もしくは協賛する方向で検討する。プレナリーレクチャーを含むプログラム内容や SIMLIMPIC 実施については、検討事項とする。
- 6) 生理学会 HP における、教育のページのあり方について検討した。

## 9. 生理学エドゥケーター認定制度委員会（中島委員長）

以下 3 点について報告および承認がなされた。

- 1) 平成 27 年度の出願受付期間は 7 月 1 日から 7 月 31 日とし、期間中に計 57 名が出願した。9 月 6 日に審査を実施し、出願申請可とした申請者を「生理学エドゥケーター」認定とすることについて諮ったところ、承認された。
- 2) 登録申請について、対象者には、委員会より 10 月 26 日に結果を通知連絡する。登録の申請受付を経て平成 28 年 1 月末迄に認定証送付予定とする。また、昨年度と同様に、認定者の氏名と所属を日誌および HP 上に掲載する。
- 3) 平成 28 年度の申請は 50 名程度と予測し、75 万円の収入を見込んでいる。

## 10. 学術・研究委員会（加藤委員長）

報告なし

## 11. 他学会連携委員会（赤羽委員長）

以下 4 点について、報告された。

- 1) 第 93 回日本生理学会大会（以後、札幌大会）では、他学会連携シンポジウム企画として 10 件を提案した。  
<他学会連携を提案した学会名>  
日本解剖学会、日本自律神経学会、全日本鍼灸学会、日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会、日本神経科学学会、日本体力医学会、日本生物物理学会、日本口腔顔面痛学会、日本薬理学会
- 2) 日本病態生理学会から公募枠で連携シンポジウム企画を提案する連絡があった。
- 3) 日本解剖学会から、合同大会の開催を提案されている。また、日本薬理学会からも合同大会開催の提案が出されている。
- 4) 札幌大会にて開催する他学会連携シンポジウムについて、第 93 回日本生理学会大会臨時拡大

プログラム委員会（7月22日）で次のように定めた。

- ・他学会連携シンポジウムのシンポジストが非会員の場合、札幌大会参加費および懇親会参加費を免除する。
- ・非会員シンポジストの旅費および謝金の支給は行なわない。

## 12. 研究倫理委員会（柁委員長）

以下2点について報告された。

- 1) 5月15日に開催された日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同主催の第1回研究倫理教育研修会「医学研究倫理を考える」に柁秀人委員長が出席した。  
本研修会の目的は、日本医学会分科会の倫理委員会委員長を中心に医学研究倫理について広く議論することであり、各分科会で医学研究倫理に関する教育・研修を強化していくことが求められている。
- 2) 神戸大会で開催したシンポジウム「研究倫理の現状と課題」で4名が講演した。いずれの発表も、その内容から記録することが提案され、日本解剖学会井出座長の働きかけにより、解剖学雑誌（第90巻4号）へ掲載された。

## 13. 利益相反委員会（柁委員長）

以下4点について、提案および承認がなされた。

- 1) 日本医学会連合「医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン」に「分科会が行うすべての事業活動に対してすべての参加者に、COI指針を適用する」と記載されていることを受け、当学会「産学連携による医学研究の利益相反（COI）に関する基本指針」の対象者について審議した結果、以下の委員会を対象とすることが承認された。  
なお、新しく委員会またはワーキンググループが発足し、当該指針の対象活動を行なう場合は「対象委員会」に追加する。

<対象委員会>

利益相反委員会、JPS編集委員会（ただし、海外在住委員は対象外）、編集・広報委員会、教育委員会（書籍や問題集のブラッシュアップ担当者については、非会員は対象外）、生理学エデュケーター認定制度委員会、学術・研究委員会、研究倫理委員会、国際交流委員会、集会委員会、賞選考委員会

- 2) COI自己申告の対象期間について、利益相反指針策定時には試行期間中ということもあって過去2年間としていたが、試行期間（3年間）が満了したので、日本医学会連合のガイドラインに従って、役員等就任時や発表時から遡って過去3年間とすることが、承認された。  
平成28年3月の理事改選後より適用することとし、事務局は新理事就任時に申告書提出を依頼する。また、申告すべき項目がない者は、「申告なし」の欄にチェックを入れたうえで事務局に提出する。
- 3) 平成27年3月末に日本医学会連合よりCOI開示項目「6. 研究費」と「7. 奨学寄付金」の開示基準額を年間200万円以上から、年間100万円以上へ変更するようとの指示があった。この指示に従って「日本生理学会利益相反(COI)に関する運用指針」の開示基準額を見直すことが、承認された。  
「産学連携による医学研究の利益相反（COI）に関する基本指針」の「IV. 申告すべき事項」に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）から受けた業務が該当するののか、との質疑があった。本件については、高松監事より日本医学会へ確認を取ることとする。
- 4) COI自己申告について、平成28年4月より申告を義務付ける。

## 14. 国際交流委員会（久保委員長）

以下5点について報告された。

- 1) 札幌大会では下記国際交流関連シンポジウムを実施する。
 

日中合同シンポジウム (CAPS-PSJ シンポジウム)、日韓合同シンポジウム (KPS-PSJ シンポジウム) には、FAOPS2019 組織委員会の要請により、「Towards FAOPS2019 (FAOPS2019 に向けて)」と副題を付記する。

  - CAPS-PSJ シンポジウム
 

CAPS 国際交流担当 Vice President の Ying-Shing Chan 氏と連携して、企画した。  
PSJ から 3 人、CAPS からの招待講演者 1 名の講演者で構成する。  
Japan-China Joint Symposium – Towards FAOPS2019 –  
“Regulation of the function, structure and trafficking of ion channel complexes by accessory subunits”
  - KPS-PSJ シンポジウム
 

KPS 学術担当の Sung Joon Kim 氏と連携して、企画した。  
PSJ から 3 名、KPS からの招待講演者 1 名の講演者で構成する。  
Japan-Korea Joint Symposium – Towards FAOPS2019 –  
“Gut to brain information flow in systemic physiology”
  - 日豪合同シンポジウム (AuPS-PSJ シンポジウム)
 

AuPS President の Graham Lam 氏と連携して、企画した。PSJ から 2 名、AuPS からの招待講演者 2 名で構成する。本シンポジウムは企画および財政面で FAOPS2019 組織委員会・鍋倉淳一委員長の尽力により実施される。PSJ は AuPS からの招待講演者に、札幌での滞在費を、1 名につき上限 5 万円を支援する。  
次回以降の経費については継続審議とする。  
Japan-Australia Joint Symposium – Towards FAOPS2019 –  
“Recent advances in Hearing Research: From Channel to Behavioral Regulation”
- 2) PSJ が招待を受け、下記大会におけるシンポジウムに参加もしくは参加予定とする。
  - KPS 大会 (平成 27 年 10 月 21 日–23 日)
 

KPS 学術担当の Sung Joon Kim 氏からの推薦依頼を受け、松岡達会員を推薦した。  
“Model-based analysis of physiological system – physiomic approach”と題したシンポジウムの招待講演を行なうこととなった。
  - CAPS 主催の国際生理学会 2016 (平成 28 年 8 月 5 日–7 日)
 

PSJ に対し、CAPS からシンポジウム 2 件の提案を求められた。PSJ 会員を対象に募集した結果、2 件の応募があり、この両案を CAPS に提案した。  
現在 CAPS にて他国からの提案と併せて検討している。なお CAPS からの旅費支援はない。
  - AuPS2016 (平成 28 年 12 月 4 日–7 日)
 

AuPS President の Graham Lam 教授より、PSJ に 2 名の講演者を招き、AuPS-PSJ 合同シンポジウムを開催したいとの意向を伝えられた。実現すれば、PSJ 講演者 1 名あたり 1,000 オーストラリアドルの旅費支援がある。
- 3) FAOPS2015 では、PSJ から提案した 2 件のシンポジウムが開催される。オーガナイズは鯉淵典之副理事長と加藤総夫副理事長が務める。
 

また、会期中に開催される総会に参加する代議員 5 名を、栗原敏理事長より FAOPS の Harbindarjeet Singh 氏に対し、推薦した。代議員は鍋倉淳一理事、加藤総夫副理事長、鯉淵典之副理事長、富永真琴理事、久保義弘委員長とする。
- 4) 平成 29 年 8 月 1 日–5 日に開催される IUPS2017 へ、御子柴克彦会員と相談のうえ、Plenary Lectures3 名、Keynote Lecturers3 名を提案した。
 

IUPS2017 のウェブページへ掲載したいとの要望を受け、PSJ のロゴマーク使用を承認した。
- 5) FAOPS2019 の成功に向け、これまで交流してきた CAPS や KPS に加え、AuPS や台湾等他のアジアオセアニア諸国との連携を深めていきたい。

#### 15. 集会委員会（富永委員長）

徳田雅明理事と平野勝也会員を第 95 回大会長とすることを諮ったところ、承認された。

#### 16. 将来計画委員会（白尾委員長）

報告なし

#### 17. 男女共同参画推進委員会（関野委員長）

以下 3 点について報告および承認がなされた。

- 1) 城戸瑞穂会員と志牟田美佐会員の委員就任について諮ったところ、承認された。

また、委員構成は下記のとおりとなった。（敬称略）

委員長 関野祐子

委員 内田さえ、小田-望月紀子、勝亦憲子、城戸瑞穂、木村純子、齊藤康彦

篠田 陽、志牟田美佐、中瀬古寛子、中道 友、西谷友重、古江秀昌、水村和枝

- 2) 会員の方々の協力により、評議員における女性比率が 13%から 15%まで上がった。更に女性比率を上げるために、引き続き協力して欲しい旨、周知された。

- 3) 10月 27 日に開催された第 13 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムには、中瀬古委員が参加し、活動報告を行なった。

#### 18. 賞選考委員会（松井委員長）

PSJ が推薦した者のうち、掛川渉会員の研究が「2015 年度山田科学振興財団研究援助」に採択されたことが報告された。

#### 19. 入澤若手賞選考委員会（尾野委員長）

候補者の募集は 10 月 30 日まで受け付けていることが報告された。

募集期間を終え次第選考を開始し、11 月中の受賞候補者決定を予定している。

#### 20. 入澤賞運営委員会（持田委員長代理：小西委員）

以下 4 点について報告された。

- 1) 平成 26 年度入澤賞受賞者 8 名への副賞振込を行なった。
- 2) 平成 25 年度受賞者の報告書受領を 6 月 2 日に完了した。
- 3) 札幌大会 HP への「入澤賞候補者募集」の掲載および一斉配信を行なった。募集期間の締切が 10 月 30 日迄となっており、応募呼びかけが行なわれた。
- 4) 入澤賞に関連する業務委託費は、現在入澤基金から PSJ の口座へ支払われている。当該業務委託費を、入澤基金から国際医学情報センターへ支払うことについて、現在委員会でメール審議を行なっている。

#### 21. 生理学女性研究者の会運営委員会（藤山委員長）

第 6 回入澤彩賞を HP で公募している。募集は 10 月 30 日迄受け付けており、現在応募者は 1 名と報告された。応募条件は以下のとおりとする。

- ・対象者は基準日（2014 年 12 月末日）に以下の条件を満たす者とする。

3 年以上の正会員歴を有する PSJ 会員

40 歳未満の女性

- ・評価基準は第 4 回から今回の第 6 回まで、「優れた研究をおこない、さらに研究活動以外（育児介護、社会活動等を含む）にも力を注いだ女性」とし、対象年齢は以下のように設定した。

第 4 回 50 歳以上

第 5 回 40 歳以上 50 歳未満

第 6 回 40 歳未満

なお、選考委員は、5名の男女で組織する。

## 22. 若手の会運営委員会（和田委員長）

以下6点について報告および承認がなされた。

- 1) 神戸大会では「解剖学からみた脳の機能、生理学からみた脳の構造」と題したシンポジウムを開催し、生理学と解剖学の共通点と相違点について議論した。
- 2) 新たに井出正和氏と山口佳小里氏が委員に就任した。
- 3) 篠田陽委員にサマースクール担当をお願いする。  
今年度は8月8日から9日に、神経内分泌をテーマとして開催した。  
今年度までは包括型脳科学研究推進支援ネットワークから約30万円の支援があったが、来年度は見込めない。講師旅費やトラベルグラント、およびポスター作成を使用目的として、PSJに同等額の支援を諮ったところ、来年度の支援として30万円を支援することが承認された。よって平成28年度予算案に加えることとする。
- 4) 若手研究者および学生の口頭発表や質疑を経験する場として、若手研究者フォーラムを開催している。今年度は秋以降の開催を予定している。
- 5) サイエンスカフェ開催を冬以降に検討する。
- 6) 札幌大会ではポスドク問題考えるランチョンセミナーを開催する。  
ランチョンセミナーについて、教育プログラムと同じ会場で開催することでシナジー効果が期待できると鯉淵典之教育委員会委員長より提案されたので、今後検討する。

## 23. 義援金配分委員会（八尾委員長）

以下4点について報告および提案がなされた。

- 1) 東日本大震災被災3県からの神戸大会参加者のうち、申請があった14名に参加登録費を返還した。
- 2) 第46回東北生理談話会を10月31日に開催する。参加者のうち、下記について申請があった者に、義援金より支払うこととする。
  - ・被災3県から参加するPSJ会員への、当該談話会参加費の返還。
  - ・東北の大学・高校・専門学校等に所属し、演題発表する学生会員へ、PSJの本年度分年会費の半額補助。
- 3) 地方会賞の選考および授与を、本年度も実施する。  
受賞者が決定したら、氏名や受賞研究をHPに掲載することを提案したところ、多久和編集・広報委員会委員長より、掲載するとの回答があった。  
また、毎年度理事長名での賞状授与することを提案したところ、現状を事務局で確認することとなった。
  - ・東北日本生理科学奨励賞  
副賞：3万円  
対象：東北において独創的、萌芽的な基礎・応用研究をおこなっている35歳未満のPSJ会員とする。3名選出し、うち1名以上は女性とする。
  - ・東北日本生理科学有志賞  
副賞：1万円  
対象：東北の大学・高校・専門学校等に所属し、独創的、萌芽的な基礎・応用研究をしている学生とする。3名迄選出する。
- 4) 今後も地方会賞の支援は継続するが、下記については今年度までの実施とする。
  - ・日本生理学会大会の参加登録費の返還
  - ・地方会参加登録費の返還
  - ・PSJ年会費の半額補助

#### 24. フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会（倉智委員長代理：古谷会員）

以下 2 点について報告および承認がなされた。

- 1) 札幌大会で下記シンポジウムを開催する。（敬称略）  
シンポジウム：心臓電気現象の多階層的理解  
オーガナイザー：倉智嘉久、井上隆司  
シンポジスト：蒔田直昌、井上隆司、石川義弘、本荘晴朗、中沢一雄
- 2) 本委員会の期間延長を提案したところ、平成 30 年 10 月まで 3 年間延長をすることが承認された。

#### 25. 日本学術会議（河西連携委員代理：加藤副理事長）

以下 2 点について報告された。

- 1) 札幌大会で下記シンポジウムを開催する。（敬称略）  
「技術革新で拓く機能医科学の新たな展開」  
オーガナイザー：高木都、平井宏和
- 2) 7 月 11 日に第 4 回分科会をおこない、次期マスタープラン申請に向けた生理学、薬理学双方の若手委員を加えたワーキンググループを設置し、前回のアンケートへの意見を求めると共に、検討を開始した。  
マスタープラン 2017 では、大型施設計画のほかに、ネットワーク型の大規模研究も認めること、異分野融合研究に配慮して、応募領域の選択方法に改良を加えることが示されている。応募締切は、前回と同じ行程であれば平成 28 年 3 月末日であるが、今回は締切が前倒しとなる可能性が高い。  
<ワーキンググループ>（敬称略）計 7 名  
今井由美子、上田泰己、平井宏和、鍋倉淳一、南 雅文、加藤総夫、本間さと

#### 26. 日本医学会評議員会

報告なし

#### 27. 日本医学会用語委員会（佐久間会員）

以下 2 点について報告および承認がなされた。

- 1) 平成 26 年 12 月 19 日に開催された日本医学会分科会医学用語委員会の議事録は、日本医学会の HP に掲載されている。
- 2) PSJ で発行した「生理学用語集」は平成 14 年版が最新であり、改訂の必要があるため、審議を行なったところ、佐久間会員を世話人に据えて、前田正信理事とともに PSJ での用語委員会を立ち上げることが承認された。両名は協力を得る会員の検討を協議して、用語統一を目指す。協力の依頼はメールにて送信予定とする。事情により協力できない場合は、推薦を依頼する。PSJ で用語集の骨子を作成した後に、他学会とも連携して更なる用語統一を図ることとする。

#### 28. 国際生理科学連合（IUPS）（御子柴会員代理：井上理事）

以下 2 点について報告された。

- 1) 7 月 31 日から 3 日間、国際プログラム委員会がブラジルで開催された。
- 2) IUPS2017 は Plenary Lectures 5 名、Keynote Lecturers 10 名を現在選考している。  
国際交流委員会から報告されたとおり、PSJ から Plenary Lectures 3 名、Keynote Lecturers 3 名を推薦した。

#### 29. アジア太平洋生理科学連合（FAOPS）（岡田会員代理：栗原理事長）

以下 4 点について報告された。



- 1) 第 1 回 Regional Physiology Quiz in China を、6 月 31 日に Xuzhou 大学で開催した。
- 2) 第 13 回 Inter – Medical School Physiology Quiz (IMSPQ) をマレーシアの Malaya 大学で開催した。8 月 12 日から 13 日にかけて開催され、23 ヶ国から計 90 大学が参加した。
- 3) 第 14 回 IMSPQ を平成 28 年 6 月 29 日、30 日に、インドネシアの Gadjah Mada 大学で開催することを決定した。
- 4) 第 8 回 FAOPS2015 大会をタイのバンコクで 11 月 22 日から 25 日にかけて開催する。  
“Translational Physiology: Imagination, Inspiration and Innovation”をテーマとする。  
FAOPS2015 大会前日には、理事会を開催する。

### 30. FAOPS2019 組織委員会（鍋倉委員長代理：加藤委員）

以下 4 点について報告および承認がなされた。

- 1) 3 月 20 日と 4 月 30 日に、委員会を開催した。
  - ・ Plenary lecture を選考中であり、現時点で Linda Buck 氏、David Julius 氏の 2 名が決定している。
  - ・ アンケート形式で会員に協力依頼して選定をおこない、ロゴを決定した。  
決定したロゴを日生誌等に掲載し、FAOPS2019 を広報していく。
  - ・ 11 月 22 日から 25 日にかけて開催される FOPS2015 でブースを設置し、FOAPS2015 アンバサダーの協力を得て FAOPS2019 を紹介する。  
FAOPS2015 会期中の 11 月 23 日午後 6 時から、Japan night を開催する。
- 2) 既に理事会で承認されている「FAOPS2019 大会規約」を「FAOPS2019 大会定款」と改め、また内容の一部改定を行なったことについて諮ったところ、承認された。  
現在後藤税理士に文言の確認を依頼している。文言を微調整する必要がある場合は、委員会に一任する。
- 3) 組織委員会規約は平成 28 年度第 1 回理事会時に提出予定とする。
- 4) 一般社団法人日本体力医学会から FAOPS2019 に参加したいとの意向があった。日本体力医学会との共催とするかは継続審議とする。また他学会とも連携する予定である。

### 31. 生物科学学会連合

報告なし

### 32. 日本脳科学関連学会連合（伊佐会員）

以下 3 点について報告された。

- 1) 5 月 9 日に第 4 回の評議員会を開催した。
  - ・ PSJ からは栗原敏理事長、加藤総夫副理事長、伊佐正会員が参加した。
  - ・ 水澤連合代表より 2014 年第 1 回、2 回と、2015 年第 1 回の運営委員会の内容および拡大三役会の内容が報告された。
  - ・ 日本脳科学関連学会連合（以下脳科連）の将来構想委員会委員長より、文部科学省脳科学委員会およびその作業部会で検討されている「戦略的に推進すべき研究課題」に対して、脳科連の提案を議論した内容を紹介した。
  - ・ 日本学術会議のマスタープランへの意見や、脳科学に関連する 3 分科会との連携について議論した。
  - ・ 各関連学会に対しての広報活動の必要性を議論した。
- 2) 神戸大会。および 7 月に開催された日本神経科学学会大会で、脳科連活動を報告した。
- 3) 平成 26 年度から 27 年度にかけて、文部科学省の脳科学委員会が行ってきた「社会への貢献を見据えた今後の脳科学研究の推進方策について—中間取りまとめ—」に関する審議が 10 月 31 日の委員会で一区切りとなった。

### 33. 第 92 回日本生理学会大会（岡村大会長）

平成 27 年 3 月 21 日から同 23 日に開催された神戸大会（第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会との合同開催）は、盛況のうちに閉会した。

大会が成功したことについて、感謝の意が述べられた。

- 1) 神戸大会における PSJ の大会組織は、以下のとおりとする。

役職	氏名（敬称略）	所属
大会長	岡村 康司	大阪大学大学院医学系研究科、生命機能研究科
副大会長、プログラム委員長	前田 正信	和歌山県立医科大学医学部
副大会長、市民公開講座担当	北澤 茂	大阪大学大学院生命機能研究科、医学研究科
事務局長	澤井 元	大阪大学大学院医学系研究科

- 2) 総参加者数は 3,066 名にのぼり、発表演題数はポスター発表を含め 1,649 題となった。また、ランチョンセミナーは 21 題、合同教育プログラムは 15 題である。
- 3) 大会の収支は、2 月 20 日時点の入金を完了している事前登録者の会員数比率を用いて按分した。PSJ56%、日本解剖学会 44%となった。
- 4) 神戸大会では以下を新たに試みた。
- ・プログラム集は持ち運び易さを考慮し、A5 判に縮小した。内容も、索引の省略化や、演題の表記を筆頭演者のみとすることで簡素化を図った。  
一方、シンポジウムの概要を掲載し、利用者の利便化を図った。  
iOs 用、アンドロイド用、Web 用の電子版アプリを作成し、プログラムや抄録の確認と検索を行なえるようにした。
  - ・日本解剖学会との合同懇親会を開催した。615 名の参加があり、PSJ からは 205 名が事前登録した。
  - ・MD 研究者育成プログラムとの合同計画で、大会 1 日目にプログラム履修学部生による口頭発表がシンポジウム枠の中で行なわれた。
  - ・例年優秀演題賞はポスター会場での当日審査によって選出されていたが、神戸大会では事前に申請を募り、審査を行なった。大学院生枠では 7 件、学部生枠では 3 件が選出され、合同懇親会会場で表彰した。
  - ・日本解剖学会の協力を得て、2 学会の合同で、模擬講義やレクチャーなどを 2 日間にわたり開催した。
- 5) 大会参加者へアンケートを実施し、229 名から回答を得た。  
回答者の約 6 割は、教授もしくは准教授である。  
回答者の約 8 割から大会に参加して良かったとの感想を得た。また、約 6 割から合同大会の開催希望があり、開催相手として、日本解剖学会の他、日本薬理学会等が挙げられた。

### 34. 第 93 回日本生理学会大会（高井大会長）

以下 6 点について報告された。

- 1) 開催概要は次のとおりとする。

会期 : 平成 28 年 3 月 22 日（火）－3 月 24 日（木）

会場 : 札幌コンベンションセンター 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目

※会期中は全館貸切

テーマ : 生きるしくみをみつめる ―新しい生理学の創造―

- 2) 10 月 23 日時点の登録状況は次のとおりである。

- ・事前参加登録数 : 200 件超

登録期間 9 月 11 日（金）－平成 28 年 1 月 15 日（金）

- ・一般演題登録 : 100 件

登録期間 9 月 11 日（金）－10 月 30 日（金）

- ・シンポジウム
  - 公募： 41 件
  - 企画： 21 件（他学会連携 10 件を含む）
  - 特別講演： 6 件
- ・ランチョンセミナー： 3 件（企業 1、若手企画 1、男女共同参画企画 1）
- ・企業協賛： 16 社 計 319 万円
  - 広告 5 件
  - 展示 10 件（書籍展示 2 件含む）
  - 寄附 2 件

3) 学生ポスター賞を実施する。

大会 HP より事前に申請を受け付ける。大会初日に候補者コーナーを会場に設け、ポスターを掲示し、大会 2 日目の午後に表彰する。

なお、学生ポスター賞の選考対象である「学生」の定義は、「指導教員がエントリーした学部生および大学院生（修士課程、博士課程）」とし、この件については大会 HP に明記することとした。

4) 市民公開講座を、次のとおり開催する。（敬称略）

- 講師： 當瀬規嗣
- タイトル： 生きるしくみ ー生理学とはー
- 日時： 平成 28 年 3 月 24 日（木）17：00－18：00（予定）
- 会場： 札幌コンベンションセンター A 会場（予定）

5) 全体懇親会を、大会 2 日目に開催する。

6) トラベルグラントを 30 万円程度予定している。

### 35. 第 94 回日本生理学会大会（福田大会長）

以下 4 点について報告された。

1) 開催概要は次のとおりとする。

- 会期： 平成 29 年 3 月 28 日（火）－3 月 30 日（木）
- 会場： アクトシティ浜松
- テーマ： 分子が奏でるハーモニーと躍動する身体機能：照らそう生命の理（ことわり）
- 運営会社：株式会社プロコムインターナショナル

役職	氏名（敬称略）	所属
大会長	浦野 哲盟	浜松医科大学医学部 医生理学講座
	福田 敦夫	浜松医科大学医学部 神経生理学講座
プログラム委員長	福田 敦夫	同上
実行委員長	浦野 哲盟	同上
事務局長	秋田 天平	浜松医科大学医学部 神経生理学講座
副事務局長	鈴木 優子	浜松医科大学医学部 医生理学講座

2) 大会 2 日目に、社員総会および総懇親会を開催予定とする。

3) 大会 HP の作成準備を進めている。

また、開催趣意書と各種協賛募集要項を、近日中の配布開始予定とする。

4) 教育プログラムの一部を大会開催前日（3 月 27 日）の午後開催やランチョンセミナープログラムとしての開催、もしくは企業共催の形態を取ることについては、拡大委員会でプログラム委員に教育委員会委員を選出して、慎重に検討する。

## 議題

1. 平成 27 年度第 1 回議事録について

修正なく、承認された

2. 次期副理事長・監事の選任について

下記のとおり承認された

監事については平成 28 年度第 1 回定時社員総会に諮ることとする

役職	担当	氏名 (敬称略)
副理事長	財務	石川 義弘
	情報	上田 陽一
	学術・研究	赤羽 悟美
	教育	鯉淵 典之
	国際化集会	久保 義弘
	庶務	渡辺 賢
監事	—	松井 秀樹
		加藤 総夫
		小西 真人

3. 平成 27 年度会計報告 (中間)

石川義弘財務担当副理事長より報告があり、承認された

4. 第 95 回日本生理学会大会 (平成 29 年) について

徳田雅明理事、平野勝也会員を大会長とし、香川県にて開催することが承認された

5. その他

- ・国際学会幹事として、鍋倉淳一理事、富永真琴理事、岡村康司会員が承認されたため、平成 28 年度第 1 回定時社員総会に諮ることとする
- ・定時社員総会時に大会長へ、大会開催感謝状を授与する。感謝状は理事長名とする